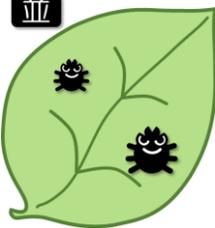
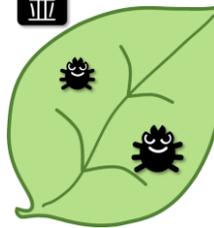
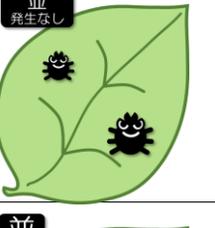
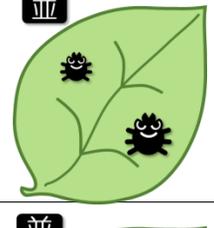
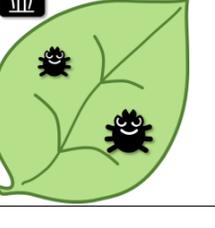
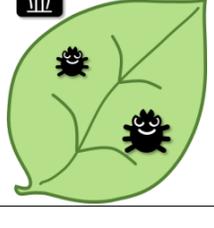
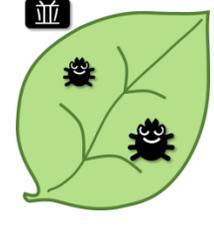


令和5年度 広島県病害虫発生予察情報 予報第10号 (果樹)

令和5年9月21日発表 (対象期間：令和5年9月21日～10月下旬)

1- (1)

かんきつ病害虫の現況と予報 (概要)

病害虫名	現況	予報	防除上の注意事項
かいよう病	やや少 	やや少 	<ul style="list-style-type: none"> ●発病した葉や枝は伝染源となりますので、速やかに樹上から除去するとともに基幹防除を徹底しましょう。 ●気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。 ●ミカンハモグリガ食害痕から感染しやすいので、食害された夏秋梢は切除しましょう。
黒点病	並 	並 	<ul style="list-style-type: none"> ●伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。 ●秋期に降雨が続く場合は追加防除を実施しましょう。 ●追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。
ミカンハダニ	少 	やや少 	<ul style="list-style-type: none"> ●果実への寄生により、外観品質を損ないますので、基幹防除を徹底しましょう。 ●薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
ミカンサビダニ	並 発生なし 	並 	<ul style="list-style-type: none"> ●裾なり、内なりの果実での発生に注意し、発生園では、9月下旬～10月上旬に防除を行います。
ナシマルカイガラムシ	並 	並 	<ul style="list-style-type: none"> ●移動性が低く圃場の一部に集中して発生することが多いため、寄生部位を中心に周辺の枝葉果実の状況を確認し、見つけ次第捕殺します。 ●マシン油乳剤による越冬期防除の準備を行います。
ヤノネカイガラムシ	並 発生なし 	並 	<p>【現況・予報の区分について】</p> <p>「現況」「予報」は、「多、やや多、並、やや少、少」の5階級に区分しています。区分は、原則として過去10年間の同時期の調査結果の数値を発生が多かった順に並べ、相対比較しています。</p> <p>「多」 : 1番目 (最多年) と同程度以上 「やや多」 : 2～3番目と同程度 「並」 : 4～7番目と同程度 「やや少」 : 8～9番目と同程度 「少」 : 10番目 (最少年) と同程度以下</p>
イセリアカイガラムシ			
ツノロウムシ			
ルビーロウムシ			

①かいよう病

現況

やや少

予報

やや少

予報の根拠

- (+) : 多発要因
- (±) : 平年並
- (-) : 少発要因

- 巡回調査での発病果率は、レモンで2.4% (平年4.6%)、ネーブルで0.5% (平年1.8%)であり、合計2.0% (平年3.9%)と平年よりやや少ない発生でした。
- 発生地点率は、レモンで45.8% (平年57.7%)、ネーブルで33.3% (平年49.8%)であり、合計43.3% (平年55.7%)と平年よりやや少ない値でした。
- 向こう1か月の気温は高い確率が70% (±)、降水量は平年より少ない確率が40%です (-)。

【防除上の注意事項】

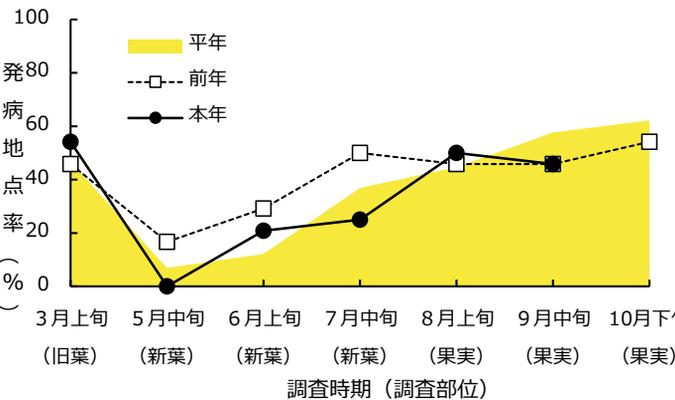
- 発病した葉や枝は伝染源となりますので樹上から除去し、ほ場外に持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、台風や大雨が予想される場合は、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- ミカンハモグリガ食害痕から感染し、果実へ伝染する恐れがあるため、食害された夏秋梢は切除しましょう。
- 銅剤散布に当たっての注意事項
 - ・マンネブ剤、マンゼブ剤は混用せずに散布し、これらの剤の散布間隔は7日以上空けます。
 - ・無機銅剤 (コサイドなど) の散布を行う際には、クレフノン (希釈倍数:200倍) を加用します。
 - ・高温時の散布を行うと薬害を生じやすいので注意しましょう。

罹病した果実

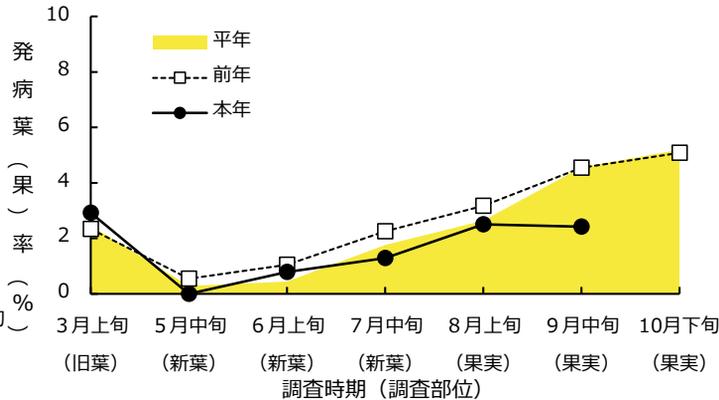


【巡回調査データ】

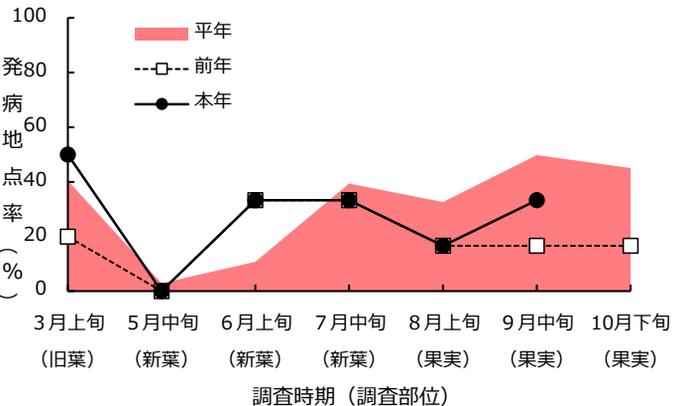
かいよう病 (レモン) 発病地点率 (県全域24地点)



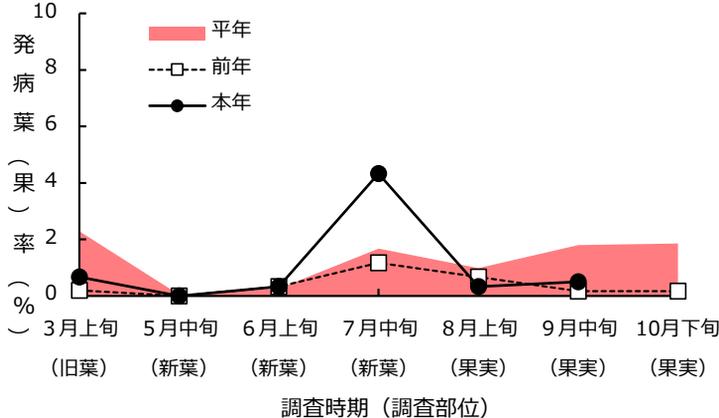
かいよう病 (レモン) 発病葉 (果) 率 (県全域)



かいよう病 (ネーブル) 発病地点率 (県全域6地点)



かいよう病 (ネーブル) 発病葉 (果) 率 (県全域)



②黒点病	現況	ウンシュウ：並 レモン：並 ネーブル：やや少	予報	ウンシュウ：並 レモン：並 ネーブル：やや少
予報の根拠	<ul style="list-style-type: none"> ●巡回調査での発病果率は、ウンシュウで14.0%（平年15.0%）、レモンで22.5%（平年21.0%）、ネーブルで1.0%（平年13.3%）であり、合計16.3%（平年17.0%）と平年並の発生でした。 ●発病地点率は、ウンシュウで平年並、レモンでやや少、ネーブルでやや少でした。 ●向こう1か月の気温は高い確率が70%（±）、降水量は平年より少ない確率が40%です（-）。 			
(+) : 多発要因 (±) : 平年並 (-) : 少発要因				

【防除上の注意事項】

- 伝染源となる枯枝は速やかに除去し、ほ場から持ち出しましょう。
- 気象予報に注意し、降雨前の予防散布を徹底しましょう。
- 追加防除は、防除後からの累積降雨量が250mmを超えるか、1か月経過したら実施しましょう。

ウンシュウ発病果

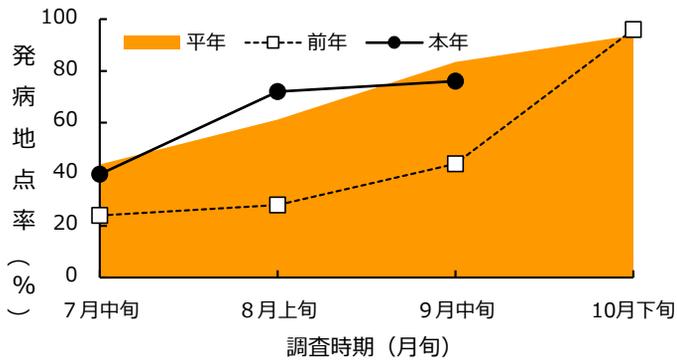


レモン発病果

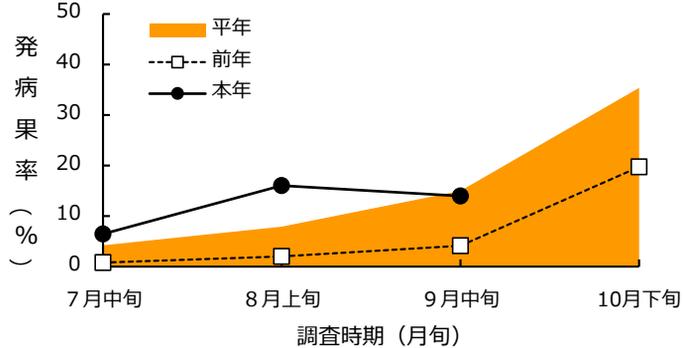


【巡回調査データ】

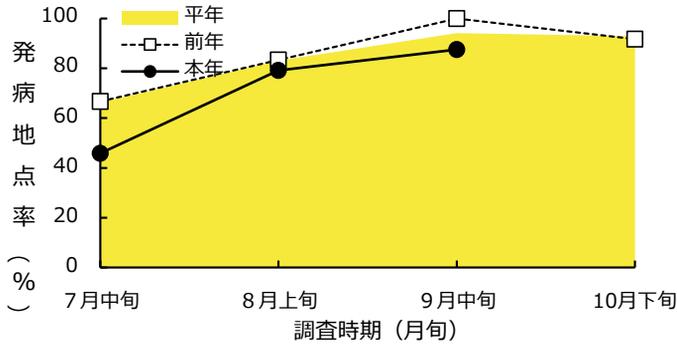
黒点病（ウンシュウ） 発病地点率（県全域 25地点）



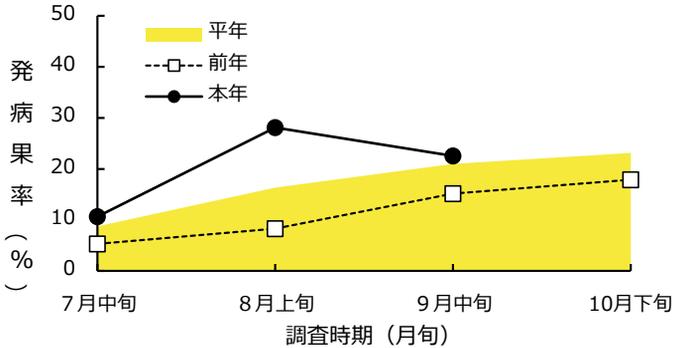
黒点病（ウンシュウ） 発病果率（県全域）



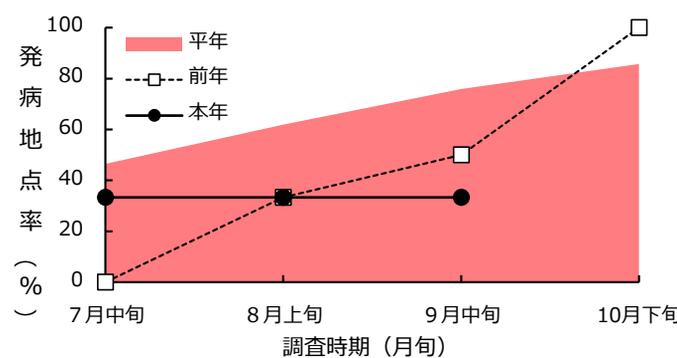
黒点病（レモン） 発病地点率（県全域 24地点）



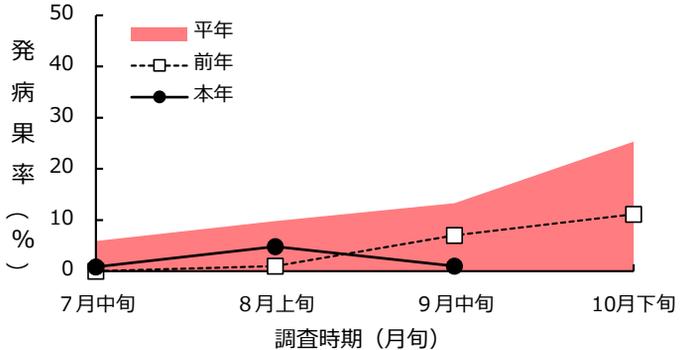
黒点病（レモン） 発病果率（県全域）



黒点病（ネーブル） 発病地点率（県全域 6地点）



黒点病（ネーブル） 発病果率（県全域）



③ミカンハダニ

現況

少

予報

やや少

予報の根拠

●巡回調査では、平年より少ない発生でした（-）。

(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

●向こう1か月の気温は高い確率が70%（+）、降水量は平年より少ない確率が40%です（+）。

【防除上の注意事項】

- 果実への寄生により、外観品質を損なうため、基幹防除を徹底しましょう。
- 薬剤抵抗性をもった個体の出現を防ぐため、同系統薬剤の連用は避けましょう。
- 薬剤は葉裏にもかかるように丁寧に散布しましょう。

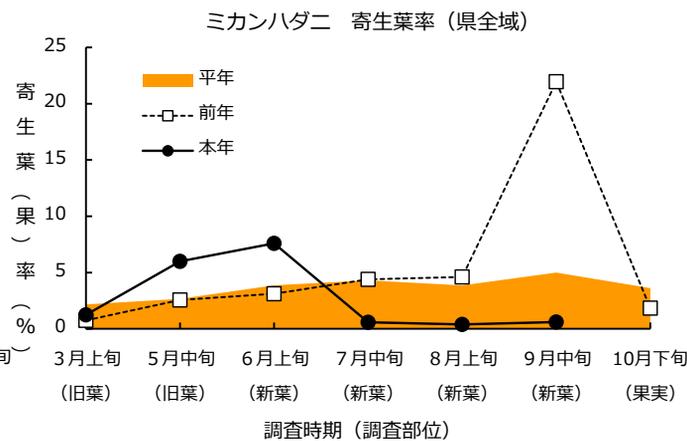
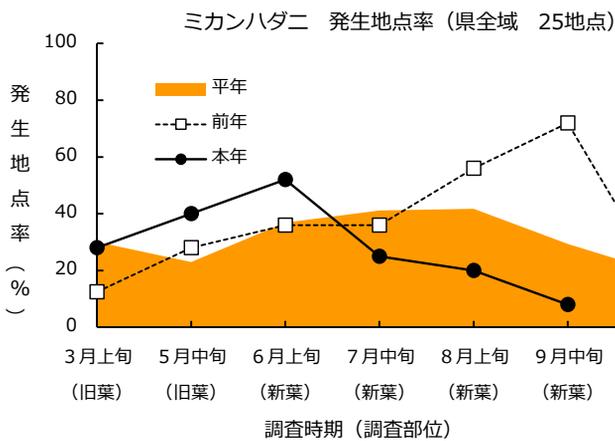


雌成虫
(体長0.5mm程度)



葉のかすり症状

【巡回調査データ】



④ミカンサビダニ

現況

並

予報

並

予報の根拠

●巡回調査では、発生を確認していません（±）。

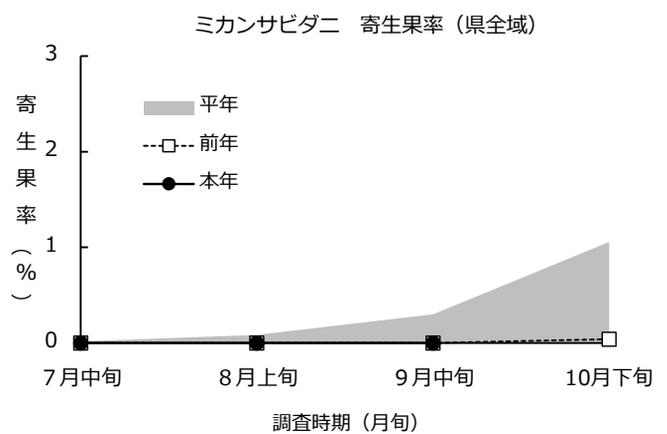
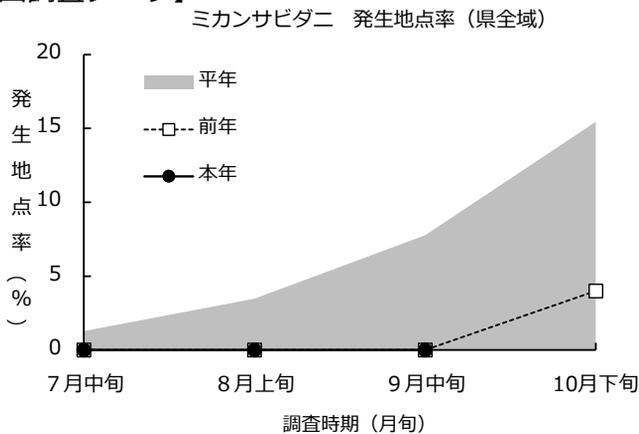
(+) : 多発要因
(±) : 平年並
(-) : 少発要因

●向こう1か月の気温は高い確率が70%（+）、降水量は平年より少ない確率が40%です（+）。

【防除上の注意事項】

- 発生園では被害の拡大を防ぐために、9月下旬～10月上旬の基幹防除を徹底しましょう。
- 特に、裾なり、内なりの果実での発生に注意しましょう。

【巡回調査データ】



①果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

現況

少～並

予報

並

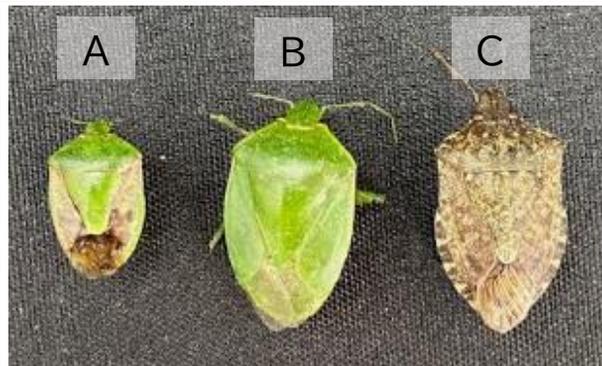
予報の根拠

●県内におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップへの累積誘殺数は、9月第2半旬の時点で、各地で少～並の結果となっています。

●今後の気温は平年より高い傾向にあり、飛来が増加する可能性もあるため、ほ場の定期的な見回りを行い、飛来が認められた場合は速やかに防除を実施してください。

※10月末までフェロモントラップ調査データを、ひろしま病害虫情報に公開するので、防除対策の参考にしてください。

(+) :多発要因
(±) :平年並
(-) :少発要因



A : チャバネアオカメムシ

B : ツヤアオカメムシ

C : クサギカメムシ

表1 各調査地点におけるチャバネアオカメムシ累積誘殺数（5月第1～9月第2半旬）

設置地点	チャバネアオカメムシ累積誘殺数（頭）				
	本年	現況	平年※ ¹	多発年※ ²	多発年以外※ ³
東広島市安芸津町	56.0	少	780.2	1693.6	388.7
福山市神辺町	23.0	やや少	165.8	315.1	101.8
世羅郡世羅町	149.9	やや少	332.2	555.1	235.0
庄原市東城町	44.1	並	137.3	354.4	44.1
庄原市高野町	44.0	並	174.8	482.3	43.0

※1 各調査地点の平年とは、過去10年の平均を示す

※2 多発年とは、注意報を発表した年（平成26、令和2、4年）の平均値を示す

※3 多発年以外とは、平成25年以降で、平成26、令和2、4年を除いた年の平均値を示す

②チャノキイロアザミウマ成虫発生予測



果梗部のリング状被害

チャノキイロアザミウマ
(体長0.8mm程度)

●チャノキイロアザミウマは、主に防風樹として利用されているイヌマキやサンゴジュなどが発生源となり、果樹園に飛来します。この虫に果皮を加害されると外観が著しく悪くなります。

●第8世代成虫の発生ピークを気温から予測すると、10月13日から17日となります。**防除適期は、この7日前からピーク当日です。**

※表2を参考に、発生ピーク予測日に合わせた防除を行ってください。

表2 チャノキイロアザミウマ成虫発生ピーク予測日

今後の気温	発生ピーク予測日	
	第7世代	第8世代
平年より高い (+1℃)	9月19日	10月13日
平年並	9月19日	10月15日
平年より低い (-1℃)	9月19日	10月17日

(広島地方気象台9月21日発表、9月23日から10月22日までの天候見通し)

- 天気は数日の周期で変わるでしょう。
- 向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%です。降水量は、平年並の確率が40%、日照時間は平年より多い確率が40%です。(図1)。
- 週別の気温は、1～2週目は高い確率が80%、3～4週目は高い確率が50%です(図2)。

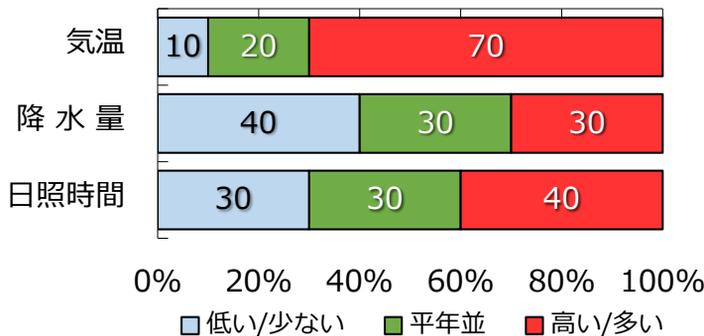


図1 向こう1か月の平均気温・降水量
・日照時間の各階級の確率(%)

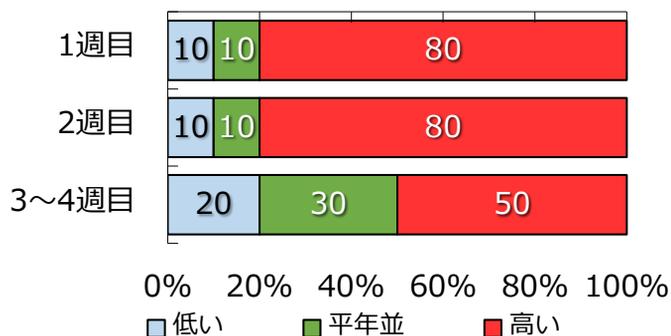
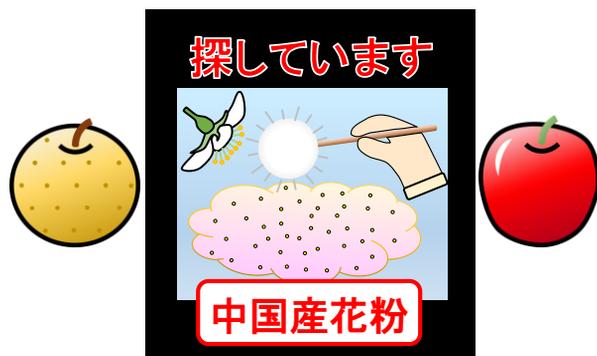


図2 向こう1か月の気温経過の
各階級の確率(%)

- 火傷病(かしょうびょう)とは
主になしやりんごが罹病します。症状は花枯れ、葉枯れ、枝枯れ、実腐れ、枝や幹のかいようなどです。現在日本国内では未発生。防除がとても難しい病気です。

- ・令和5年度に中国産のりんご属植物及びなし属植物の花粉を使用した園地は、花粉に付着して火傷病菌が侵入した可能性があります。
- ・火傷病菌には有効な農薬はなく、その被害は甚大、まん延スピードが非常に速い病害で、農業に重大な損害を与えると想定されます。
- ・侵入した場合は、植物防疫法に基づく緊急防除を直ちに発動して、感染の恐れのある樹木の伐採を徹底的に進める必要があり、産地に甚大な被害が及ぶことが心配されています。
- ・中国産花粉を使用した(おそれのある)園地があれば、下記問い合わせ先までお知らせ下さい。



●PCでアクセス

ひろしま病害虫情報

掲載アドレス↓
<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>

●スマホでアクセス

ひろしま病害虫情報

QRコードはこちら →



お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151 東広島市八本松町原6869

電話：082-420-9662 (直通)

※次回の予報発表は令和6年3月です。